

令和元年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】 令和元年10月7日（月） 14：00～16：30

【開催場所】 富士見市教育委員会会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	発田
○	○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
(1) 令和元年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
- 5 議 題
(1) いじめのない学校づくり子ども会議について
- 6 事務連絡
第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
令和2年2月14日（金）14：00 富士見市教育委員会会議室
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) いじめのない学校づくり子ども会議について

【事務局】 今年度の「いじめのない学校づくり子ども会議」では「いじめをなくすために、自分たちでできること」をテーマに小中合同で話し合いをする。話し合いの進め方や、効果が期待できる取組、工夫について御意見を伺いたい。

【委員】 子どもたちが意見を言いやすいように説明、指示することが必要。「いじめ」という直接的な言葉で聞かず、「〇〇した（された）ことがある」のように間接的に聞くとよいだろう。

【事務局】 会議の導入として、いじめを話題とした新聞記事を提示し、自分たちの周りでも似たようなことはないか考えたり、原因について考えたりする予定である。

【委員】 子どもたちが、新たな視点に気づくきっかけとなる記事がよい。子ども自身の力、周囲の子どもたちの力が信じられるようにしたい。教員側からはこのように考えられるといった視点を与えてもよいのでは。

【委員】 小学生、中学生でもっている知識量が違う。特に小学生が、中学生と一緒に話し合うことで、新たな考えに気づけるような話し合いとなるようにしたい。

【委員】 「どうしていじめが起きてしまうのか」と直接的に問うことで、現在の子どもたちの認識に差があることも分かるのではないか。

【委員】 「自分（たち）はどう関わっていきたいか」と問うことが大切。「自分も役に立ちたい」という自己有用感につなげたい。

【委員】 「ラウンドテーブル」の手法を進める際、初めに「何でもかいていい」ことを示すことや雰囲気づくりが重要。書き出したことに対して質問をしたり、似たようなものを線でつないだりしながら進めていくので、最終的に3つくらいにまとまるだろう。

(2) その他

【委員】 「いじめはいけないこと」と思っている子どもは多いが、「そうは思わない」という子どももいる。「いじめられても仕方がない」と考える子どももいる。そのような子にどのような力をつけるようにすればよいだろうか。

【委員】 保護者の影響力は大きく、連携が大切。しかし「やられたらやり返す」「やり返さないと、もっとやられる」と考えている保護者もいる。暴力に暴力、暴言に暴言といった考えを変えていかないといけない。

【委員】 学校では、①感情のコントロールができるようにすること②不快な感情を（自分で）理解し、他者に伝えること③自己有用感（自分が役に立っていること）が感じられること④アサーション（適切に自己主張をすることや折り合いをつけること）能力を育てることが大切。

【委員】 感情をコントロールするには、自分の感情を言語化できることが必要。「あなたが大事」という思いや態度が、子どもの自己有用感につながる。

【委員】 いじめやトラブルが起きたときに、加害側・被害側に時系列で事実確認をする中で、その時の感情を聞くことがあると思う。特に加害側の子どもには、「（今、振り返ってみて）その時の自分に何と言いたいか」問うことで自分を省みることにつながる。